

# 新人工股関節を開発

「ベータ」の2種類あり、身長、体格に合わせて各10サイズをラインアップ。年間約800件の採用を目指す。

人工股関節はステムと、その先端に付ける球状の「ヘッド」▽骨盤とヘッドをつなぐ半球状の「カップ」▽ヘッドとカップの間で軟骨の働きをする樹脂製の「ライナー」で構成する。

従来のステムは円柱形だったのを、新型ではくさび形に改良。円柱形より細く、大腿骨の中心を専用器具で削って埋め込む際、削る骨の量を3分の1程度少なくすることができるとしている。

## ナカシマメディカル

手術時間が短くなるほか、骨粗しょう症で骨がもろくなった高齢者にも向くという。強度は従来型と同等で、断面が長方形になっているため、角の部分が「ストッパー」となり、埋め込んだ後にずれにくいといったメリットもある。

9月に国の薬事承認を得て現在、岡山県内外の10医療機関が試用している。

くさび形のステムは欧州メーカーが既に製品化して

人工関節など医療機器メーカーのナカシマメディカル（岡山市東区上道北方）は、体への負担が少ない人工股関節部品を開発した。大腿骨に埋め込む「ステム」と呼ばれるパーツで、手術の際に骨を削るのを少なくできる形状にした。国の薬事承認を得ており来春以降、本格販売を始める。（久万真毅）

## 体への負担軽減 量少なく 削る骨少

おり、国内で年間約12万例ある人工股関節への置換手術の約2割に使われている。手術のしやすさ

患者の生活の質向上に貢献している。手術のしやすさ



左がくさび形の新型ステム「ベータ」、中央が同「アルファ」。右は従来タイプ

から今後も使用割合が増えたい」としている。ナカシマメディカルは船用プロペラメーカーのナカシマメディカル（岡山市）に合わせたのが特徴。事業部門から2008年の「アルファ」、若者や上高約30億円（13年11月）運動量が多い人向けの期。従業員約180人。

### 来春にも2種本格販売

### サイドストーリー



人工関節部品の外箱にカードを入れる奥島さん

### メッセージカード同封

底にある。

「岡山工場で、心を込めて丹念に作り込んだ製品です」。ナカシマメディカルは、人工関節にこんな内容のカードを同封して出荷している。医療関係者らに、ものづくりへの熱意を知ってもらおうとの取り組みだ。

### ものづくりの熱意込める

カードは営業担当者を中心とする社内チームが、革細工などの職人が製品へのこだわりをユーザーに伝えるメッセージカードをイメージして考案、8月から始めた。名刺大で品質保証担当者の名前、連絡先を明記。滅菌包装した人工関節部品の外箱に入れていく。医療機器でこうした取り組みは珍しいという、梱包班長の奥島宏之さん（36）は「これまで以上に緊張感をもって仕事に臨むようになった。絶対の自信を持って製品を送り出す」と言う。

（久万真毅）